



Contact Us

080-1352-9386

psc.kura@yuuyuu-social.com

山梨県南アルプス市西野
1758



蔵 ku-raについて

180年の歴史ある
古民家で特別な日常を



外壁について

外壁の左官は墨色で仕上げています。まず墨色って黒じゃないの？と思われるかもしれませんが、実は黒味の中に、茶色や青、紫など、いろいろな色が見え隠れしています。この墨の色を「墨(ぼく)色(しょく)」と言います。薄い墨、中間の墨、濃い墨、この墨色の組み合わせだけでも立体的に見えたり、色が付いている様に見えたりします。水墨画の世界には、「墨に五彩(ごさい)あり」という言葉があります。この意味には諸説ありますが、一説には、墨の濃い、薄いだけで表現する事で描いた人の思いや、見る人の気持ちでいろいろな色に変化する事と言われています。黒という色の中に、自分の気持ちで色を付けるのです。蔵の外壁もぜひ色々な角度から眺めて、様々な色を感じてみてください。

暖簾について

土間の入り口と支援センターの入り口にある暖簾は、西染物店さんが作ってくれています。生地はコットン（綿）とリネン（麻）でできています。コットンリネンとは、爽やかなリネンに、コットンを混ぜることで「柔らかさ」をプラスした素材で、肌にまとわりつかず、ふんわりと優しい肌あたりとなっております。また、暖簾にはいくつもの役割があり、もともとはチリよけ埃よけ、目隠しから始まったもので、それに加え、空間を分ける結界の意味合いもあります。布一枚ですがそこで気持ちの切り替えができる、精神的な結界のような役割もあります。

庭について

庭師、空庭の彌永さんが作ってくれています。彌永さんは、その土地や植生、歴史を踏まえ、そこにしかない風景を作るために自然樹形にこだわって庭を作ってくれています。様々な動植物のフィールドにお邪魔し、色々な植物や生きものとの出会いをお子さんだけでなく、保護者の皆様にも五感で楽しんでいただけたら嬉しいです。

縁側について

今はあまり見る事がなくなった縁側ですが、さまざまなメリットがあります。外部からの直射日光や冷気は、縁側でワンクッション置くことで、室内に直接暑さや寒さが伝わらずに済み、夏は涼しく冬は暖かい省エネ効果があります。また、庭が一望できるため、子どもたちが遊んでいる様子を、縁側に座って見ることができ、保護者の方もお子様も安心して過ごすことができるような仕組みになっています。

土間について

土間は洗い出し仕上げという方法で仕上げられています。洗い出し仕上げの施工は、セメントが完全に固まる前に表面を洗い出さなくてはならないため、難しい施工で、左官職人の技術と経験が重要なカギとなります。このタイミングが早いと骨材が動いてしまったり、また逆に遅いと露出が不十分となってしまったりすることがあります。このタイミングは、気温や湿度によって変化するため、状況に応じて適切に判断することが求められるため、職人の腕の見せ所となっています。

土間奥の扉について

土間奥の扉はもともこの古民家にあったもので、昔は蔵戸として使われていたであろうものですが、改修工事が始まる前までは古民家の庭側に立てかけてありました。長年使われていなかったようですが、大工さんがもう一度使えるようにはめ込み、戸として命を吹き返しました。長い間使っていなかったとは思えないほど、鍵の機能や開閉に違和感がなく当時の職人さんの仕事の精密さに驚かされます。

大黒柱・梁について

この建物を約180年間支え続けた大黒柱。大黒柱の語源の由来はいくつかあるようですが、その一つが、昔民家の土間に面したところに建てられ、台所の神として大黒天を祭ったことから、大黒柱と呼ばれるようになったといわれています。また、天井を見上げて頂くと、大きな梁があるのですが、梁という漢字は、河川の両端を結ぶ「渡し橋」という意味の由来を持ち、英語ではビームと呼ばれます。梁は建築物において水平方向の力を支えるためにとっても重要な役割を果たしていて、日本では、横揺れの発生する地震が頻繁に発生するため、よりその重要性が高いとされています。蔵k u - r aもそうですが、日本家屋や古民家の天井を見上げると、太く立派な曲がった梁が架けられている様子を見ることができます。これはなぜかという、曲がっていることで荷重の負荷を分散させているからです。また、昔は今のよう、木をまっすぐに製材する技術が発達していなかったことも関係していて、曲がった梁も、まっすぐな柱とは違う素朴で自然な趣があるものとして、鑑賞美にもあふれています。

設備・内壁について

内壁は漆喰で仕上げられています。漆喰建築の代表例としては、九州の熊本城などがあげられます。漆喰の壁が、このように昔から使われるのは、激しい雨風にさらされなければ、100年以上保つとされる優れた壁だからです。塗りたての壁は、一見数日で乾燥したように見えますが、実は多少の水分を保持したまま固まっていて、漆喰の壁は1ミリ硬化するのに約3年かかるといわれています。その乾いたように見える壁は、常に化学反応を起こしながら、漆喰壁の表面から炭酸ガスを吸って、水分を外に出しながら、ゆっくりと硬化しているため、水分に弱いため、沐浴室やシャワー室には漆喰ではなく、モルテックスを使用しています。

